

## 序

高崎市は、古来より関東と信越をつなぐ交通の要衝に位置する人口約37万4千人の中核市です。

本市では、平成29年10月に、特別史跡である山上碑、多胡碑、金井沢碑の上野三碑が、ユネスコ「世界の記憶」に登録され、以前にも増して市内外より多くの見学者が訪れており、文化財への関心が高まっています。

本書で報告する御布呂遺跡4は、浜川運動公園通り線改良工事に伴って発見された埋蔵文化財であり、平成30年4月から5月にかけて発掘調査を実施したものです。

限られた範囲の調査ではありましたが、中世この地において、人々が生活していたことを示す成果をあげることができました。本報告書はこの成果について文化財調査報告書第449集としてまとめたものです。

結びに、発掘調査および報告書刊行にあたりご協力をいただきました関係機関並びに関係者の皆様に心から感謝申し上げます、序といたします。

令和2年3月

高崎市教育委員会

教育長 飯野真幸

## 例言

1. 本書は浜川運動公園通り線改良工事に伴い実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡名、遺跡番号、所在地ならびに事業内容、事業主体は以下のとおりである。

遺跡番号・遺跡名	733 浜川御布呂遺跡4
所在地	高崎市浜川町1488-3・1509-3
事業内容	浜川運動公園通り線改良工事
事業主体	高崎市

3. 発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課埋蔵文化財担当が行った。  
発掘調査体制は次のとおりである。

教育長 飯野真幸

教育部長 小見幸雄

文化財保護課長 角田真也

課長補佐 神澤久幸・矢島 浩

庶務担当 平成30年度 岡田清香・加藤志津代・金井英一・金山 悟

令和元年度 岡田清香・小暮里江・滝沢 匡・関口芳治

調査担当 田辺芳昭・金子智一

4. 発掘調査および整理期間は以下のとおりである。

発掘調査期間 平成30年4月11日～平成30年5月18日

整理期間 令和元年5月15日～令和2年3月31日

5. 本書の執筆は田辺が行った。
6. 遺構の写真撮影は田辺・金子が行った。
7. 図版等の作成は田辺の指示のもと補助員が実施した。
8. 発掘調査における表土掘削及び埋め戻し作業は(株)井ノ上が実施した。
9. 遺構平面測量図の作成は技研コンサル(株)に委託した。
10. 発掘調査により出土した遺物や記録図面、写真類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。
11. 発掘調査にあたり、地元関係者および関係機関、所管部署にご協力をいただいた。
12. 発掘調査および整理作業には多くの補助員にご尽力をいただいた。記して感謝する。

## 凡例

1. 本書に使用した地図は、1/2500 高崎市都市計画図をもとに作成した。
2. 本書中の座標値は平面直角座標第IX系国家座標（世界測地系）をもちい、方位は同座標北（G.N.）である。  
断面図に付した標高はT.P.を基準とした。
3. 本書中の図版縮尺は各図に表示している。
4. 土層の色調および土壌の注記は、農林水産省農林水産技術会事務局および（財）日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』を使用した。
5. 遺構名称および遺構番号は、調査時に付したものを使用し、遺構の略号は次のものを使用した。  
SD = 溝跡 SE = 井戸跡 SK = 土坑 P = ピット・柱穴
6. 火山噴出物には次の略号を使用した。  
浅間A軽石：As-A 1783（天明3）年 浅間B軽石：As-B 1108（嘉祥3・天仁元）年  
浅間C軽石：As-C 3世紀末～4世紀初頭 榛名ニツ岳浜川テフラ：Hr-FA 6世紀初頭

## 目 次

---

序文・例言・凡例

第1章 調査の経緯・経過	1
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 標準層序	1
第3節 歴史的環境	1
第3章 調査の概要	2
第1節 確認遺構について	2
第2節 まとめ	2

写真図版

抄録・奥付

## 挿図目次

---

第1図 調査箇所位置図
第2図 周辺の遺跡図
第3図 調査区全体図及び基本土層図
第4図 SD-1・SD-2・SD-3・SD-4・SD-5・SD-6 平面図・断面図
第5図 SE-1 SK-1・SK-2・SK-3・SK-4A・SK-4B・SK-5 平面図・断面図
第6図 ピット-1～ピット-16・ピット-21 平面図・断面図・出土遺物
第7図 ピット-17～ピット-40 平面図・断面図
第8図 ピット-41～ピット-47 平面図・断面図
第9図 東区 ピット全体図

## 第1章 調査に至る経緯・経過

平成29年、高崎市都市整備部都市施設課（以下都市施設課）より、周知の埋蔵文化財包蔵地内での浜川運動公園通り線改良工事について届出があった。平成29年12月13日、試掘調査を実施したところ、現地表下66cmで中世のピット群、162cmでHr-FAで埋没する古墳時代水田跡を確認した。試掘調査結果をふまえ都市施設課と協議を行った結果、工事により影響をうける部分について発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなった。なお、対象地は歩道予定地であること、工事による掘削深の検討から、古墳時代水田跡は現状保存の措置が取られた。

調査の方法は、現況道路の拡幅部分（幅2.2m・延長90m）を対象とし、表土（現耕作土および近年の造成土）を重機により除去後、人力により遺構の確認および埋没土除去作業を行った。遺構・遺物の確認状況を測量および写真により記録し調査を完了した。なお、調査区名称について、対象地ほぼ中央に存在するコンクリート製水路で二分し、東区・西区（現地調査時E区・W区）とした。

## 第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

### 第1節 地理的環境

浜川御布呂遺跡4（以下本遺跡）は、榛名山東南麓の「白川扇状地」裾部にあり、南東流する井野川の右岸に形成された微高地上標高113m付近に位置する。また、微高地の北西から南東にかけて広大な後背湿地が開ける。なお、古墳時代の榛名山噴火による大規模な泥流により周辺の地形は一変しており、本遺跡北西では、Hr-FA泥流で埋没した河川と思われる大きな谷の存在が知られる。

参考文献 『浜川遺跡群』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998年

### 第2節 標準層序

対象地は現況地表面で観察すると、調査区西端部に向け緩やかに高くなっており、東西の比高差は約1mである。標準層序は次のとおり。なお、Ⅲ層以下は、試掘調査所見による。

- I 表土層：現況農地である西区では現耕作土、東区では近年の造成土となる。
- II 黒褐色土層：Iと比べ色調は暗くなり、粘性は無い。As-Bを密に混入する。多くの遺構埋没土と類似するため、中世頃の堆積土と思われる。本調査区では、As-B層が残存していないため、II層形成以前に何らかの整地が行われたものと考えられる。
- III 黄褐色・黄橙色土層：榛名山噴火時の泥流堆積土。主にシルト・砂からなり、礫や角閃石安山岩粒を含む。層上部は土壌化し、8～9世紀頃の土師器・須恵器の小片を少量包含する。試掘調査の所見では、本泥流土は、調査区北端で1mほどの厚みで堆積する。東区南端付近では概ね南東方向に帯状（幅約1.9m）に延びる砂礫層がみられ、小規模な自然流路と判断した。
- IV Hr-FA層：泥流土直下に残存する。
- V 黒色土層：粘性強い。土層観察地点では古墳時代の水田耕作土である。

### 第3節 歴史的環境

本遺跡（1）周辺では、弥生時代後期頃から遺構数が増加する。古墳時代前期に前方後方形周溝墓が築かれる（35）ことから、この頃には組織的な開発が行われていたようで、扇状地裾の台地・微高地上には居住域（34・35・37～39）や畠作地、低湿地には水田がつくられていった。As-Cに埋没した状態で畠跡（35）や水田跡（2・3・27・30・41）が確認され、芦田貝戸Ⅱ遺跡では水田耕作土から弥生時代中期後半の土器片が出土した。古墳時代後期の5世紀後半頃、有力首長の拠点が営まれ、墳丘長100m前後の前方後円墳



3基（保渡田古墳群）や居館（32）が築かれる。居住域（31・33～35）や畠作地（3・33・34）はより上流域へと拡大する。一方、水田はほぼ前時代の立地を踏襲するが、同道遺跡では、湧水灌漑から河川灌漑への変化があり、給水量の増加がはかられる。また芦田貝戸遺跡では、河川から取水していた基幹水路とされる大溝（上幅8.6m・深さ3.6m）が確認され、大規模工事を可能とする土木技術の導入が理解される。6世紀初頭及び中葉の榛名山噴火により、周辺一帯は厚い泥流に覆われて地形が一変した。このため、被災以前の状況を知る資料は極めて限定的である点は注意したい。被災と連動するように、周辺で大型前方後円墳はみられなくなるが、本遺跡北西に県内最大級の円墳とされる上小埜稲荷山古墳（45、直径約45m・6世紀第2四半期頃築造）が所在する。畠や水田に明確な復旧痕跡がみられない一方、居住域は継続し、古墳時代終末期の7世紀代には空白地への進出がみられる（42）。大八木屋敷遺跡（41）は被災後の水田上に奈良時代以降居住域が形成され、平安時代にかけて掘立柱建物が多数構築され、官衙など公的施設の可能性が考えられている。「白川扇状地」では平安時代の居住域は広範囲にみられる（3・18・22・24）。また、多くの遺跡でAs-Bに埋没する水田跡が確認されており、古墳時代水田と重なるもの（3・27・30）もあるが、かなりの面積が新規に開発されている（9・18・20・22・23）。なお、御布呂遺跡や熊野堂遺跡などでは東山道駅路（5）との関連が想定される道路遺構が確認されている。

中世では、長野氏の開発拠点となり、関連が想定される城館址が多く存在し（4・6・8・10・12・13・14・15・17・19・25・26・28・29・36・40・43・44）、一部では発掘調査が実施されている（3・7・11・12・16・18・21・27・35・41・42）。また、現時点で城館址として認識されていないが、中世の遺構が多数みられる遺跡があり（2・20・22）、本遺跡の北から北東にかけ隣接する御布呂遺跡1～3では、掘立柱建物跡群や柵列跡、井戸跡などが確認されている。

- 参考文献 『新編高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』 高崎市 2000  
『新編高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ』 高崎市 1999  
『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』 高崎市 1996  
『新編高崎市史 通史編1 原始古代』 高崎市 2003  
『群馬町誌 資料編1 原始古代中世』 群馬町誌刊行委員会 1998

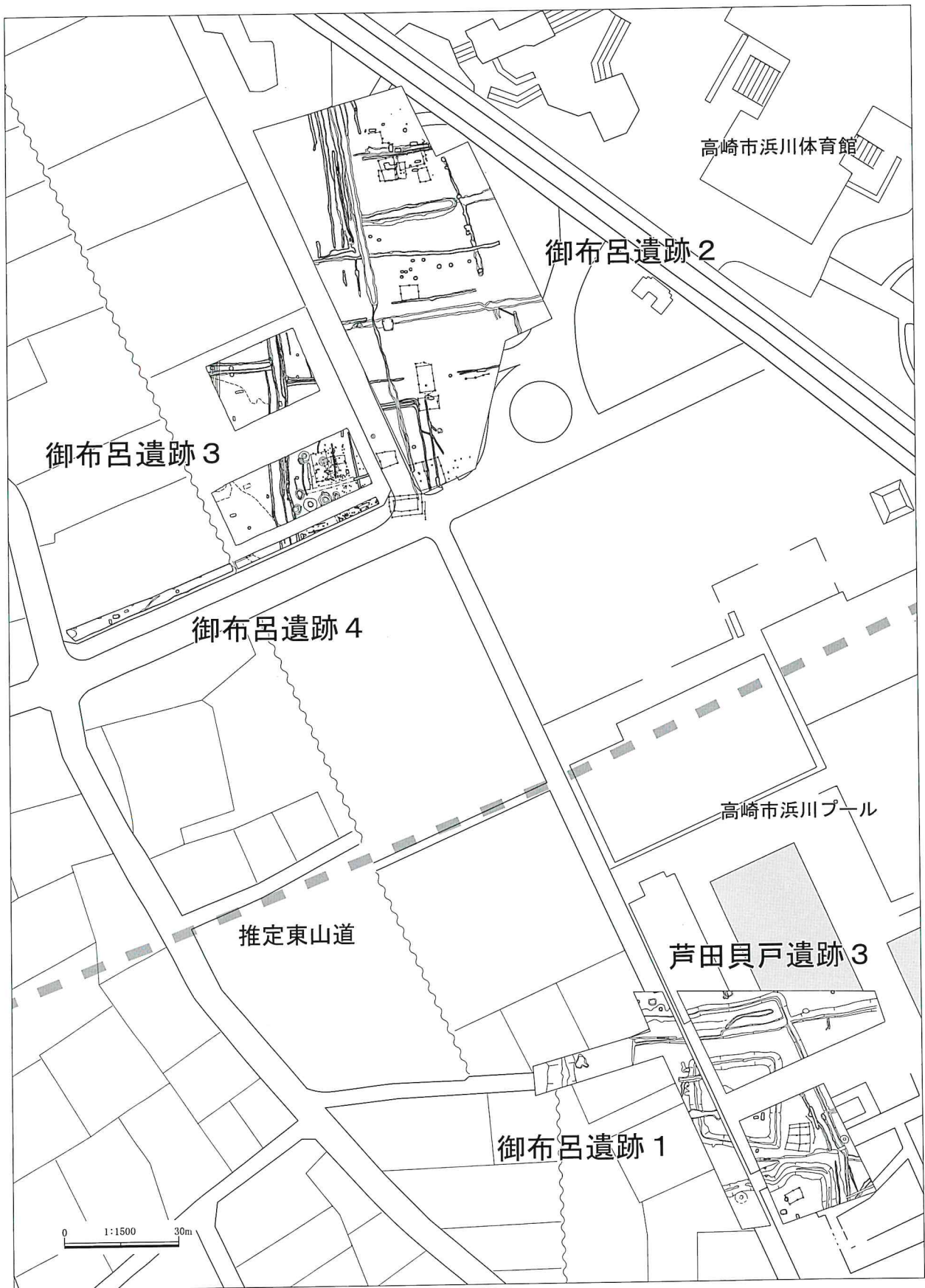
### 第3章 調査の概要

#### 第1節 確認遺構について

標準層序Ⅲ層上面で、西区では井戸跡1基・土坑2基、東区で土坑4基・溝跡6条・ピット49基を確認した。東区ではSD1～4の溝群以東でピットが高密度で構築される。同ピット群は一定の区画内に構築された掘立柱建物や柵列に伴うものと思われ、重複が多数認められることから数次にわたる建替が想定される。溝群以東の遺構は、いずれも埋没土の状況が良く似ており、As-B降下以降の各々比較的近い時期に構築された可能性が高く、出土遺物の乏しさから具体的な時期を想定しにくい。P-16Bで出土した青磁小片から14世紀前後と判断される。西区では極端に遺構が希薄となり、井戸跡（SE-1）は東区遺構群と離れた位置にあり、埋没土は類似するが、関連を想定しにくい。

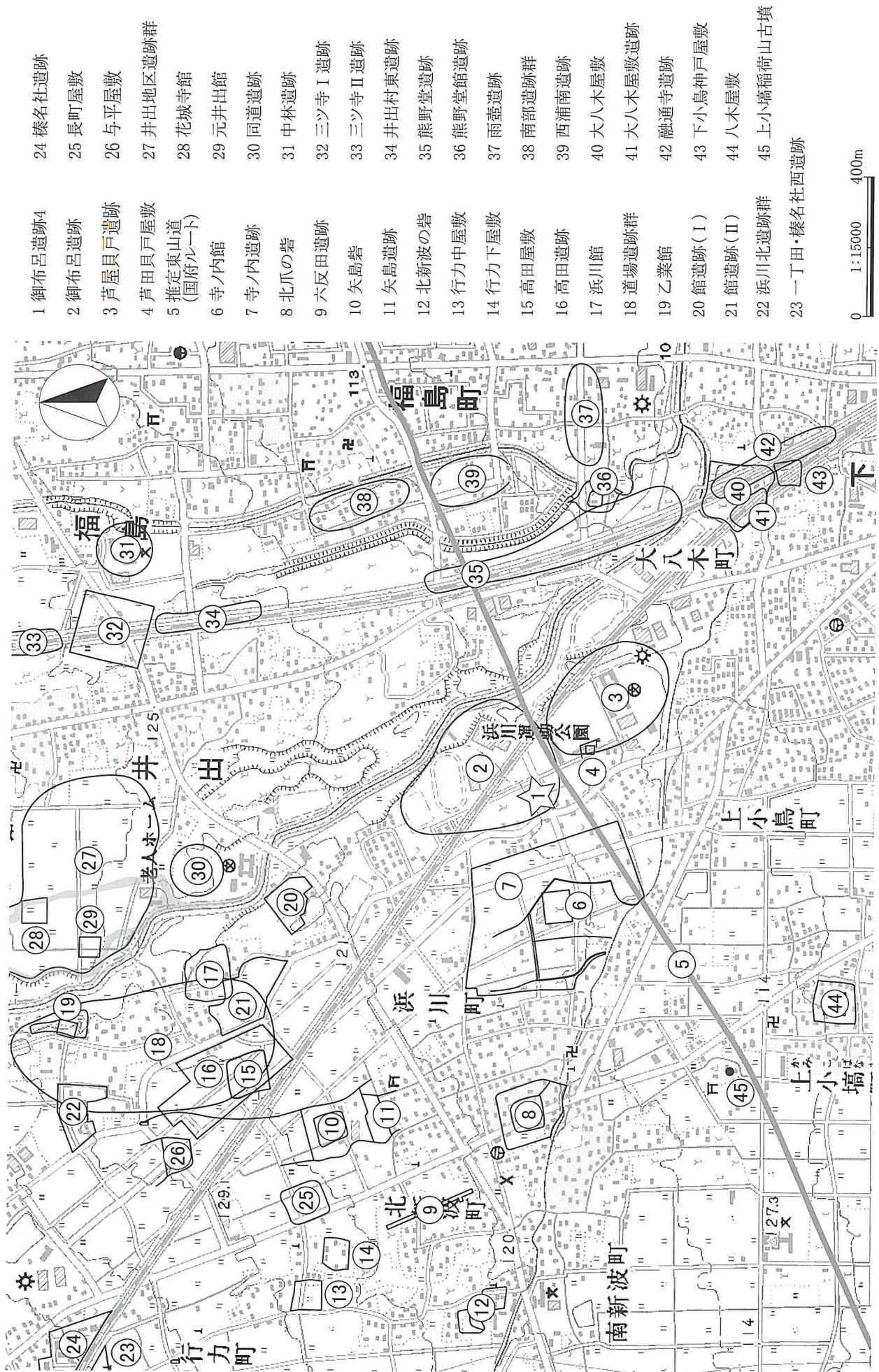
#### 第2節 まとめ

東区で確認された遺構群は、隣接地で確認された中世建物群の一部と判断され、南東約150mに存在する芦田貝戸屋敷と呼称される溝区画や、南西約150mにある寺ノ内館址とあわせ、周辺に相当規模の集団が居住していたことがうかがわれる。本遺跡と芦田貝戸屋敷との間には、東山道駅路と関連する道跡が通過し、本拠点が古代における交通の要衝に立地することは注意される。



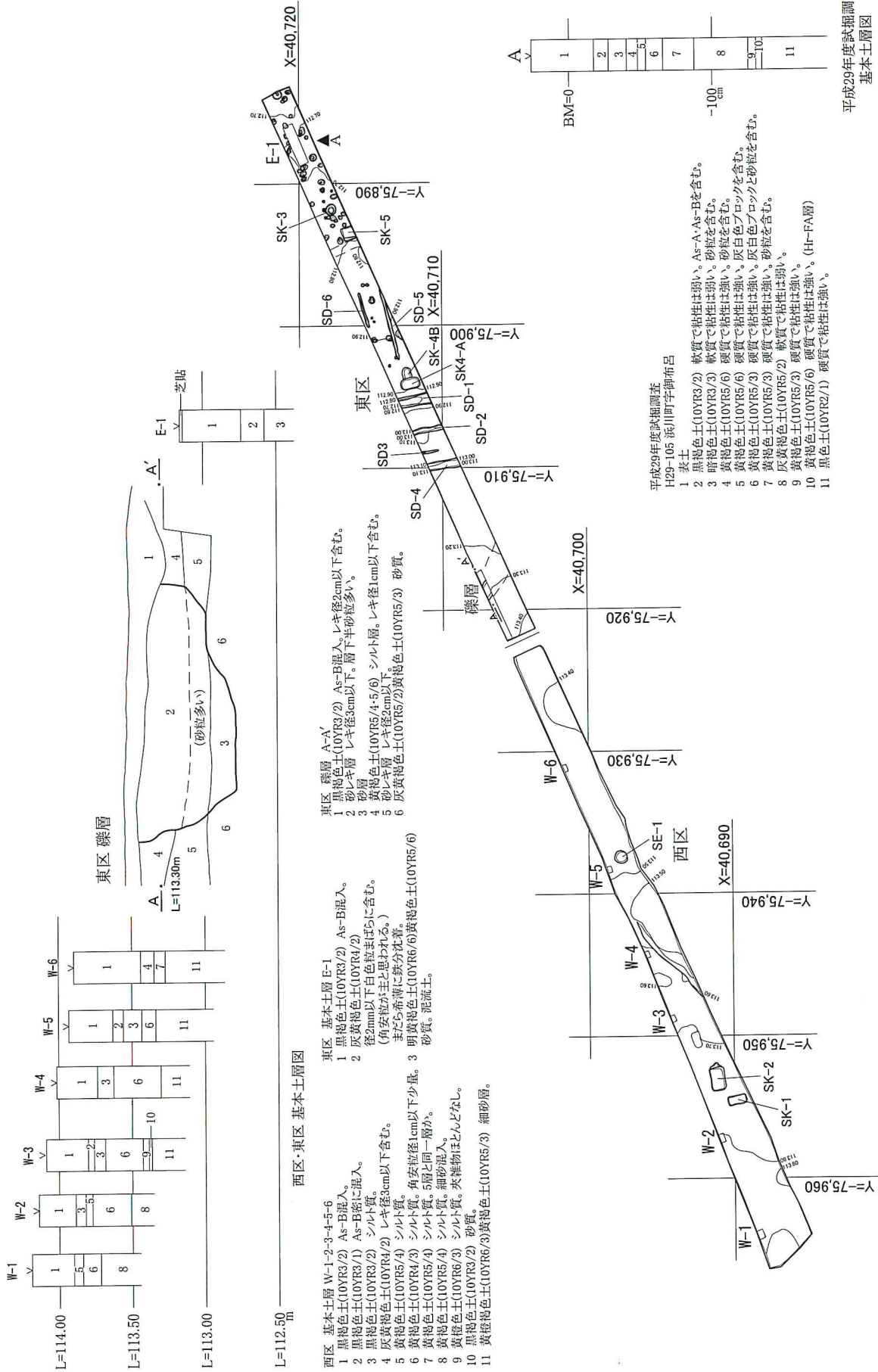
第1図 調査箇所位置図





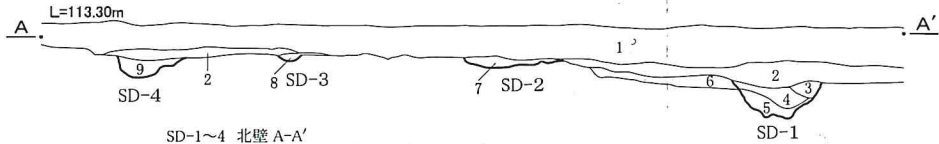
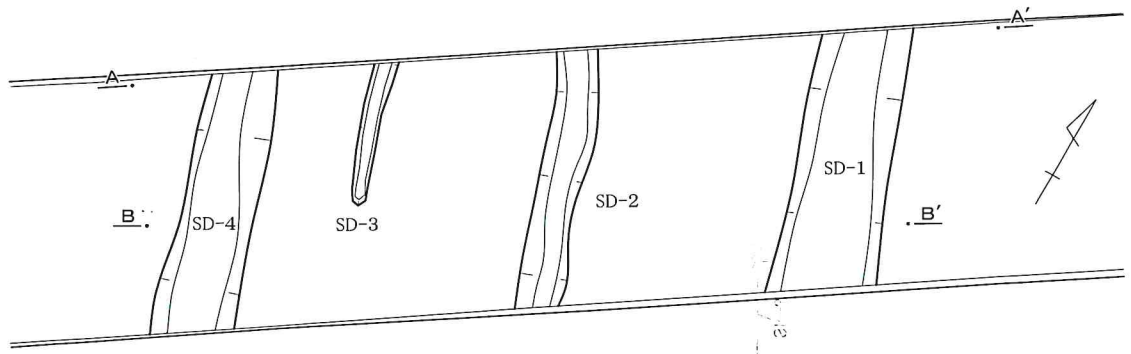
- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1 御布呂遺跡4           | 24 榛名社遺跡     |
| 2 御布呂遺跡            | 25 長町屋敷      |
| 3 芦屋貝戸遺跡           | 26 与平屋敷      |
| 4 芦田貝戸屋敷           | 27 井出地区遺跡群   |
| 5 推定東山道<br>(国府ルート) | 28 花城寺館      |
| 6 寺ノ内館             | 29 元井出館      |
| 7 寺ノ内遺跡            | 30 同道遺跡      |
| 8 北爪の砦             | 31 中林遺跡      |
| 9 六反田遺跡            | 32 三ツ寺 I 遺跡  |
| 10 矢島砦             | 33 三ツ寺 II 遺跡 |
| 11 矢島遺跡            | 34 井出村東遺跡    |
| 12 北新波の砦           | 35 熊野堂遺跡     |
| 13 行力中屋敷           | 36 熊野堂館遺跡    |
| 14 行力下屋敷           | 37 雨壺遺跡      |
| 15 高田屋敷            | 38 南部遺跡群     |
| 16 高田遺跡            | 39 西浦南遺跡     |
| 17 浜川館             | 40 大八木屋敷     |
| 18 道場遺跡群           | 41 大八木屋敷遺跡   |
| 19 乙業館             | 42 融通寺遺跡     |
| 20 館遺跡(I)          | 43 下小島神戸屋敷   |
| 21 館遺跡(II)         | 44 八木屋敷      |
| 22 浜川北遺跡群          | 45 上小島稻荷山古墳  |
| 23 一丁・榛名社西遺跡       |              |

第2図 周辺の遺跡図



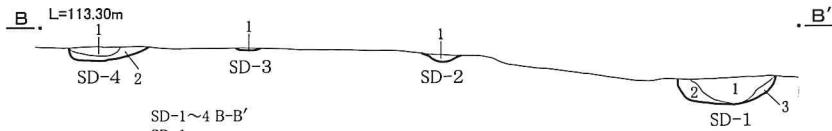
第3図 調査区全体図及び基本土層図





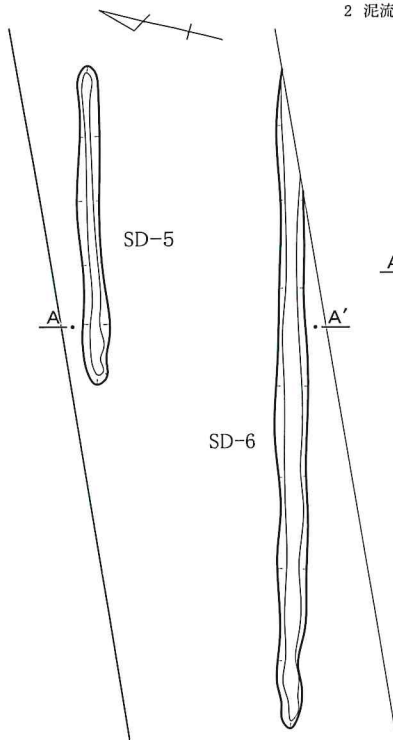
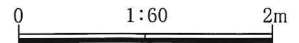
SD-1~4 北壁 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。  
(以下の層と比べ、軽石の粒径にバラつきがあり、均質さを欠く。As-Aが混ざるか。) 泥流土ブロック状少量。近年の耕作土。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。泥流土ブロック状少量。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 粘性なし・よくしまる。泥流土ブロック径1cm以下やや密に含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) 粘性なし・しまる。泥流土ブロック状まばらに含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 粘性なし・しまる。泥流土ブロック状密に含む。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性・ややしまる。As-B含む。泥流土ブロック状少量。
- 7 黒褐色土(10YR3/1) やや粘性・ややしまる。As-B混入。泥流土ブロック径1cm以下まばらに含む。
- 8 7層とほぼ同じ。
- 9 黒褐色土(10YR3/1) 粘性なし・しまる。As-B混入。泥流土ブロック状含む。



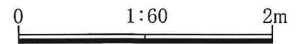
SD-1~4 B-B'

- SD-1
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 粘性なし・しまる。As-B混入。泥流土ブロック径1cm以下少量。
  - 2 黒褐色土(10YR3/1) 粘性なし・しまる。As-B混入。泥流土ブロック状密に含む。
  - 3 泥流土ブロック主体 黒褐色土(10YR3/2)含む。
- SD-2
- 1 SD-3の1層とほぼ同じ。
- SD-3
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 粘性なし・しまる。As-B混入。泥流土ブロック径1cm以下少量。
- SD-4
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 粘性なし・しまる。As-B混入。
  - 2 泥流土ブロック主体 黒褐色土(10YR3/1)含む。

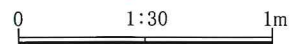


SD-5・SD-6 A-A'

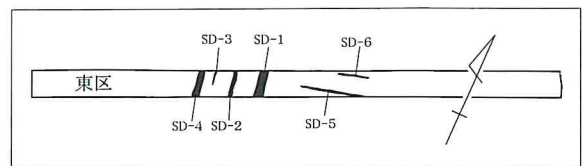
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。泥流土ブロック径1cm以下まばらに含む。炭片(小)微量。



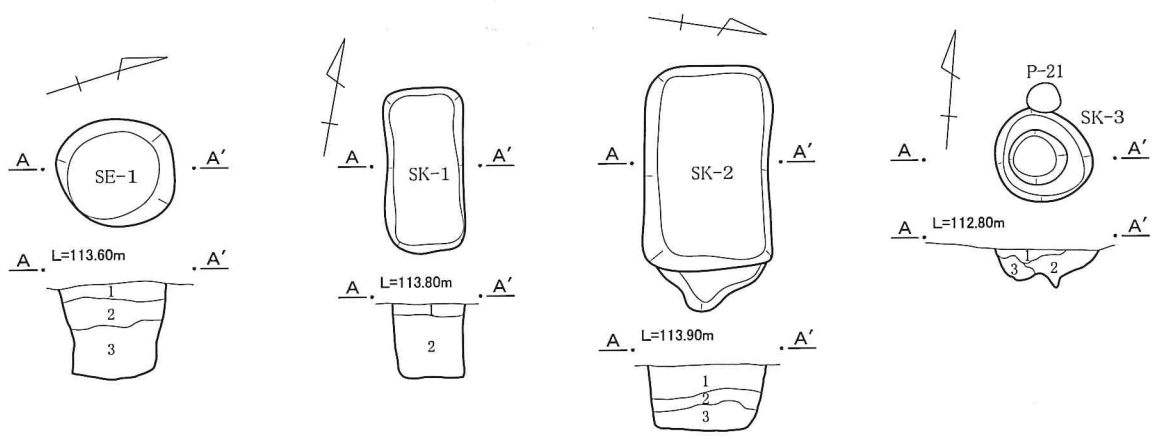
(平面図)



(断面図)



第4図 SD-1・SD-2・SD-3・SD-4・SD-5・SD-6 平面図・断面図

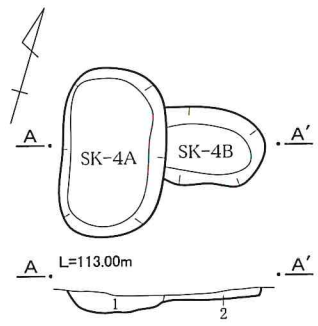


SE-1 A-A'  
 1 泥流土(黄褐色土-10YR5/3・砂性)ブロック主体  
   黒褐色土(10YR3/2)含む。  
 2 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック状含む。  
 3 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック状密に含む。

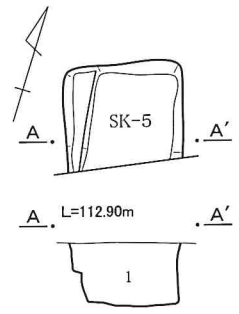
SK-1 A-A'  
 1 暗褐色土(10YR3/3) 粘性なし・しまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック径2cm以下含む。  
 2 暗褐色土(10YR3/3) 粘性なし・しまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック径3cm以下密に含む。  
 上 泥流土 黄褐色土(10YR5/3) シルト質。  
 下 泥流土 黄褐色土(10YR6/3) 砂性。  
 ※SK-1・2とも、フク土の状況は良く似る。  
 泥流土は細かくブロック状となる。

SK-2 A-A'  
 1 暗褐色土(10YR3/3) 粘性なし・しまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック径3cm以下含む。  
 2 暗褐色土(10YR3/3) 粘性なし・しまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック径3cm以下密に含む。  
 3 暗褐色土(10YR3/3) 粘性なし・しまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック径3cm以下含む。

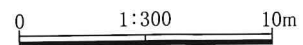
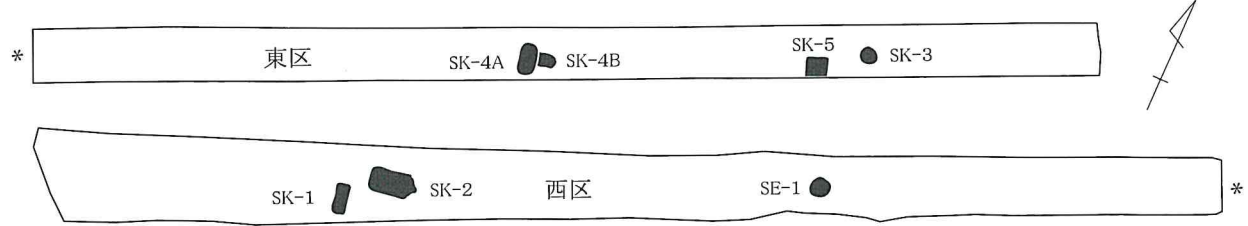
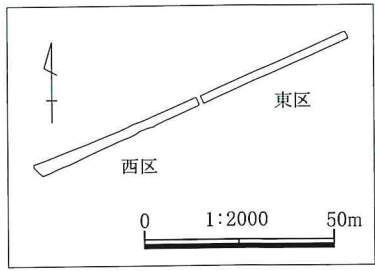
SK-3 A-A'  
 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック状やや密に含む。  
 2 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック状含む。  
 3 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・しまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック状密に含む。



SK-4A A-A' 4A・4B A-A'  
 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック状まばらに含む。  
   炭片(小)微量。  
 2 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック状含む。



SK-5 A-A'  
 1 黒褐色土(10YR3/1) 粘性なし・ややしまる。As-B混入。  
   泥流土ブロック径2cm以下  
   まばらに含む。



第5図 SE-1 SK-1・SK-2・SK-3・SK-4A・SK-4B・SK-5 平面図・断面図

## 733 溝観察表

SD-1	第4図 / PL1	走向軸	概ね N - 10° - W	幅	概ね 0.70 ~ 0.84	深さ	概ね 0.21 ~ 0.30
確認長	概ね 2.06	基底面	概ね平坦。北壁際に凸凹有り。	断面形態	上端が開く「U」状を呈する。		
所見	出土遺物無し。埋没土や周辺遺構の状況から中世と判断される。						
SD-2	第4図 / PL1	走向軸	概ね N - 12.5° - W	幅	概ね 0.32 ~ 0.38	深さ	概ね 0.06 ~ 0.09
確認長	概ね 2.04	基底面	概ね平坦。	断面形態	上端が開く「U」状を呈する。		
所見	出土遺物無し。埋没土や周辺遺構の状況から中世と判断される。						
SD-3	第4図 / PL1	走向軸	概ね N - 10° - W	幅	概ね 0.11 ~ 0.20	深さ	概ね 0.02 ~ 0.06
確認長	概ね 1.15	基底面	概ね平坦。	断面形態	上端が開く「U」状を呈する。		
所見	出土遺物無し。埋没土や周辺遺構の状況から中世と判断される。						
SD-4	第4図 / PL1	走向軸	概ね N - 10° - W	幅	概ね 0.50 ~ 0.65	深さ	概ね 0.10
確認長	概ね 2.09	基底面	概ね平坦。北壁際東立上りに段有。	断面形態	上端が開く「U」状を呈する。		
所見	出土遺物無し。埋没土や周辺遺構の状況から中世と判断される。						
SD-5	第4図 / PL-	走向軸	概ね N - 75.5° - E	幅	概ね 0.16 ~ 0.26	深さ	概ね 0.05 ~ 0.07
確認長	概ね 5.00	基底面	概ね平坦。	断面形態	上端が開く「U」状を呈する。		
所見	出土遺物無し。サクの可能性ある。埋没土の状況から中世以降と判断される。						
SD-6	第4図 / PL-	走向軸	概ね N - 74° - E	幅	概ね 0.15 ~ 0.22	深さ	概ね 0.02
確認長	概ね 2.53	基底面	概ね平坦。	断面形態	上端が開く「U」状を呈する。		
所見	出土遺物無し。SD-5と関連したのであろう。						

## 733 井戸観察表

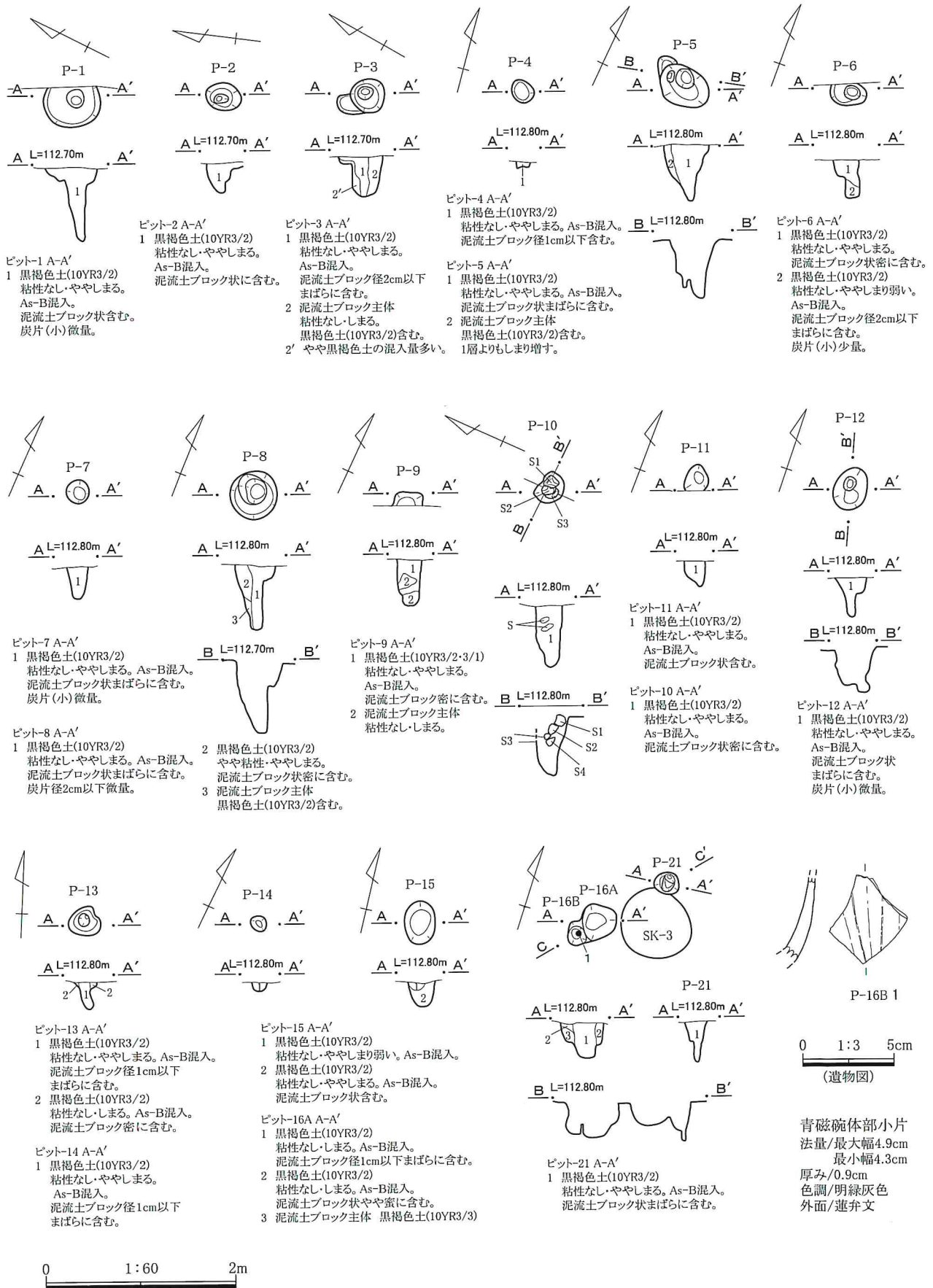
SE-1	第5図 / PL1	平面形態	円形状	長軸・短軸	0.93・0.87	深さ	0.76	主軸	N - 40° - E
断面形態	底面はほぼ平坦。立上り、下層部はほぼ垂直。上層部はやや開く。								
所見	土師器・須恵器の小片出土。埋没土の状況から中世以降と判断される。								

## 733 土坑観察表

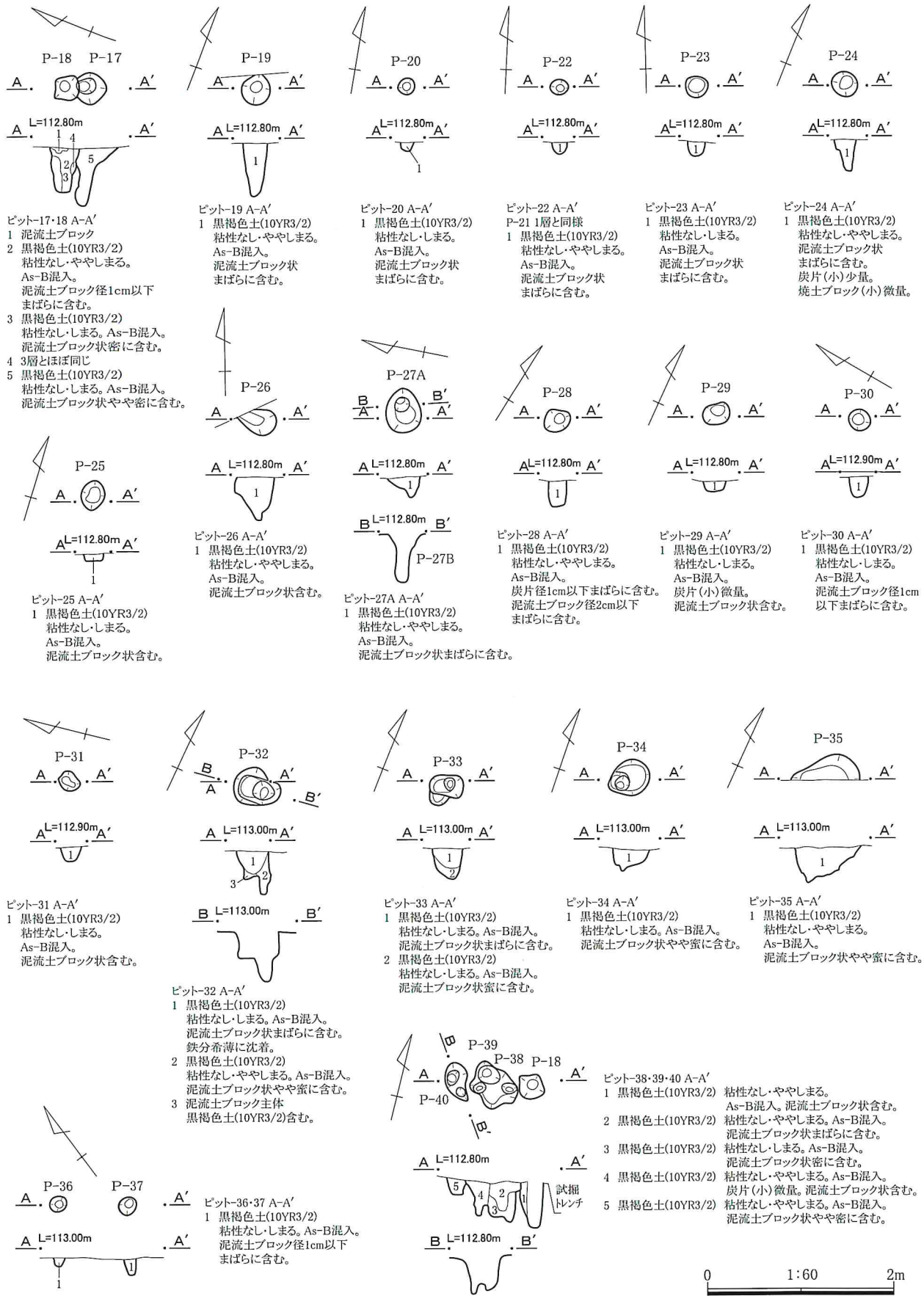
SK-1	第5図 / PL2	重複関係	—	長軸方向	N - 12° - W			
平面形態	長円形状	断面形態	基底面は平坦。立上りは垂直。	長軸・短軸	1.30・0.60	深さ	0.59	
所見	埋没土内で出土した陶器・磁器片から、比較的近年のものと判断される。							
SK-2	第5図 / PL2	重複関係	—	長軸方向	N - 81° - E			
平面形態	長円形状	断面形態	基底面は平坦。立上りはほぼ垂直。	長軸・短軸	1.62・0.98	深さ	0.52	
所見	埋没土内で出土した陶器・磁器片から、比較的近年のものと判断される。							
SK-3	第5図 / PL2	重複関係	SK-3 ? P-21	長軸方向	N - 72° - W			
平面形態	円形状	断面形態	上部が開く「U」状を呈する。基底面に凸凹有り。	長軸・短軸	0.80・0.72	深さ	0.30	
所見	出土遺物無し。埋没土や周辺遺構の状況から中世と判断される。							
SK-4A	第5図 / PL2	重複関係	SK-4B → SK-4A	長軸方向	N - 13° - W			
平面形態	長円形状	断面形態	上部が開く「U」状を呈する。基底面はほぼ平坦。	長軸・短軸	1.35・0.78	深さ	0.17	
所見	出土遺物無し。埋没土や周辺遺構の状況から中世と判断される。							
SK-4B	第5図 / PL2	重複関係	SK-4B → SK-4A	長軸方向	N - 80° - E			
平面形態	長円形状	断面形態	基底面は平坦。立上りはやや外傾する。	長軸・短軸	0.77~0.60	深さ	0.09	
所見	出土遺物無し。埋没土や周辺遺構の状況から中世と判断される。							
SK-5	第5図 / PL2	重複関係	—	長軸方向	N - 23° - W			
平面形態	長円形状?	断面形態	基底面は平坦。立上りはほぼ垂直。西壁に段有り。	長軸・短軸	0.93・0.81~	深さ	0.50	
所見	出土遺物無し。埋没土や周辺遺構の状況から中世と判断される。							

単位:m

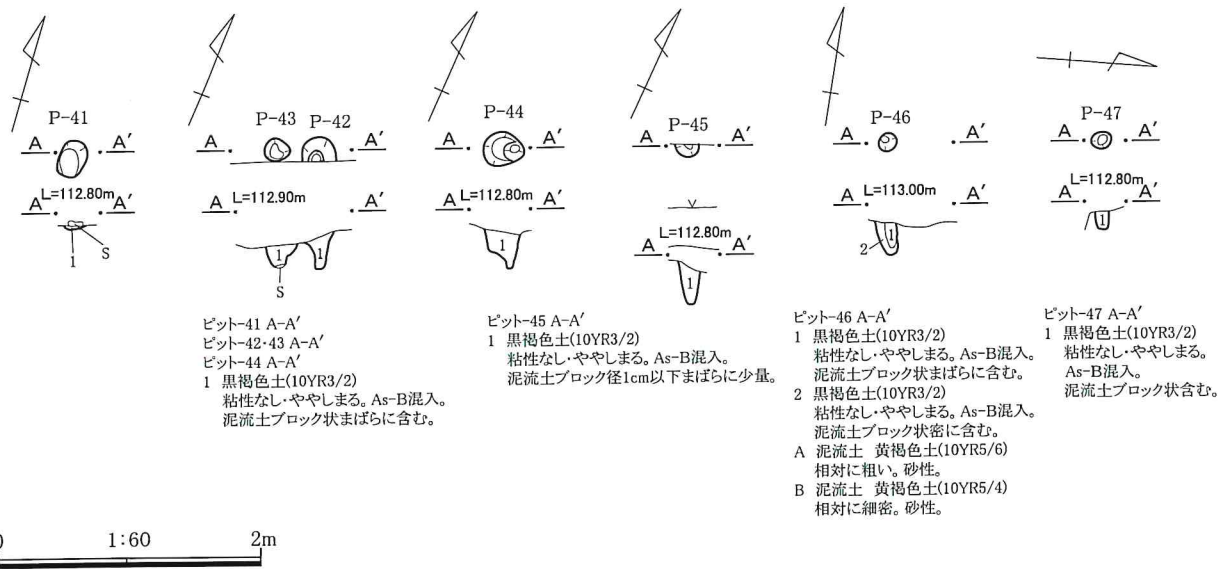




第6図 ピット-1～ピット-16・ピット-21 平面図・断面図・出土遺物



第7図 ピット-17～ピット-40 平面図・断面図



第8図 ビット-41～ビット-47 平面図・断面図

733 E区W区 ビット計測表 第6.7.8.9図 / PL2

番号	平面形態	長軸・短軸/深さ	番号	平面形態	長軸・短軸/深さ
P-1	不整円形	61・44 / 80	P-23	円形	24・22 / 16
P-2	楕円形	38・30 / 32	P-24	円形	29・27 / 34
P-3	不整円形	38・37 / 46	P-25	楕円形	32・25 / 8
P-4	不整円形	26・21 / 8	P-26	楕円形	35～・28 / 47
P-5	不整円形	58・42 / 62	P-27A	不整形	47・37 / 22
P-6	不整円形	40・25～/ 42	P-27B	不整形	18・16 / 52
P-7	円形	26・25 / 36	P-28	不整形	31・27 / 28
P-8	円形	54・50 / 72	P-29	不整形	28・22 / 12
P-9	不整形	32・15 / 50	P-30	円形	25・23 / 23
P-10	不整形	37・29 / 68	P-31	不整形	24・21 / 16
	径15cm程の自然礫が充填される		P-32	不整形	51・38 / 46
P-11	不整形	29～・26 / 28	P-33	不整形	36・22 / 33
P-12	楕円形	48・35 / 42	P-34	不整形	48・38 / 25
	土師器小片(埋没土内)		P-35	不整形	76～・25～/40
P-13	不整形	34・31 / 30	P-36	円形	20・17 / 18
P-14	円形	19・17 / 10	P-37	円形	18・17 / 10
P-15	楕円形	47・33 / 28	P-38	楕円形	18・10 / 44
P-16A	不整形	41・36 / 40	P-39	楕円形	24・19 / 38
P-16B	不整形	21・20 / 36	P-40	不整形	44・24 / 18
	青磁碗体部小片(埋没土内)		P-41	楕円形	30・10 / 3
P-17	不整形	36・28～/ 63	P-42	不整円形?	26・20～/ 18
P-18	不整形	32・28 / 49	P-43	不整円形	19・18 / 30
P-19	不整円形	34・31 / 56	P-44	不整円形	32・26 / 32
P-20	円形	18・17 / 10	P-45	円形?	20・10～/ 35
P-21	不整円形	26・24 / 44	P-46	円形	16・14 / 27
P-22	不整円形	20・17 / 14	P-47	円形	16・13 / 14





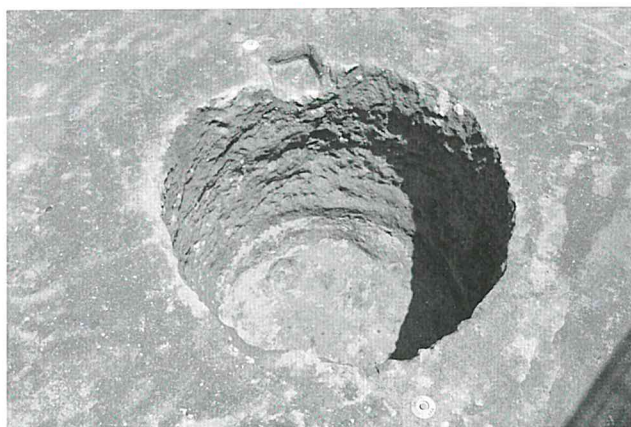




全景(西→)



全景(東→)



SE-1(南→)



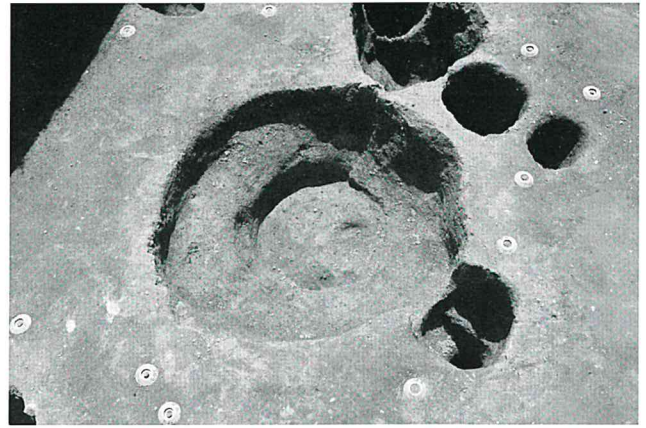
SD-1~SD-4(東→)



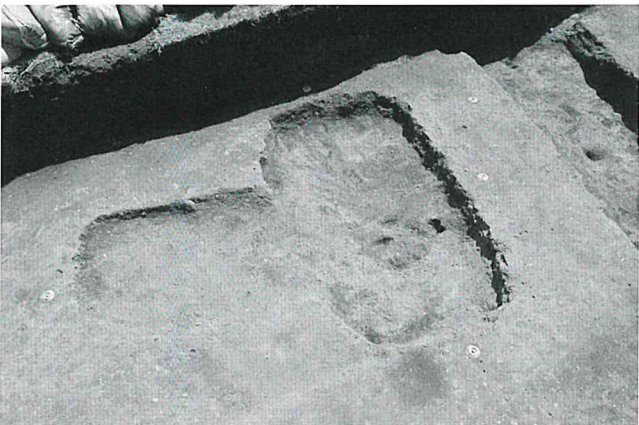
PL 2



SK-1,SK-2(西→)



SK-3(北東→)



SK-4A,SK-4B(北→)



SK-5(北西→)



P-10(南→)



P-16B 青磁片(南東→)



東区西端礫層(南東→)



作業状況(西→)



# 抄 録

ふりがな	おふろいせきよん							
書名	御布呂遺跡4							
副書名	浜川運動公園通り線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第449集							
編著者名	田辺芳昭							
編集機関	高崎市教育委員会							
編集機関所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1							
発行年月日	2020年 3月 26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おふろいせき 御布呂遺跡4	ぐんまけんたかさし 群馬県高崎市 はまがわまち 浜川町	10202	733	36度 36分 38秒	138度 98分 72秒	2018. 04. 11 ) 2018. 05. 18	200㎡	道路改良

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
おふろいせき 御布呂遺跡4	集落	中世	井戸跡1・土坑6 溝跡6・ピット49	青磁片	

所収遺跡名	要約
おふろいせき 御布呂遺跡4	中世集落跡である。集落の性格は明らかではないが、東山道駅路との関連が想定される古代道路遺構が近接するため、伝統的に交通の要衝となっていた地域に形成された集落の可能性はある。

---

高崎市文化財調査報告書第 449 集

## 御布呂遺跡 4

浜川運動公園通り線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2020 年 3 月 12 日印刷

2020 年 3 月 26 日発行

編集・発行／群馬県高崎市教育委員会  
群馬県高崎市高松町 35 番の 1  
電話 027 (321) 1111 (代表)

印刷／野島印刷株式会社

---